子宮頸がんワクチンを受けましょう！

厚生労働省により子宮頸がんワクチンの積極的勧奨は再開されています。
2023 年 4 月からは高い予防効果がある 9 価ワクチンが公費で受けられるようになりました。

定期接種対象者；小学 6 年～高校 1 年生の女子

子宮頸がんは、20～30 歳代の若い女性に増えています

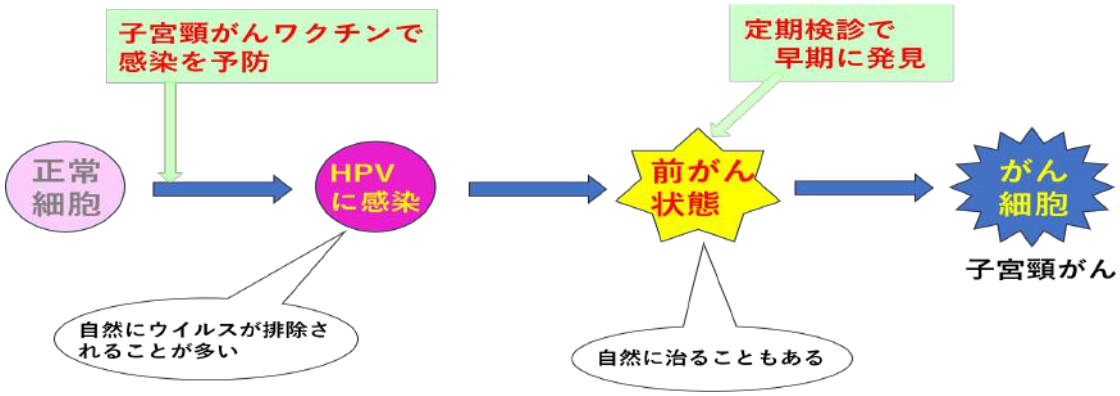
日本では、毎年約 10000 人もの女性が子宮頸がんと診断され、約 2800 人が子宮頸がんで亡くなっています。また 20 歳代後半から 30 歳代という子宮頸がんの発症年齢と出産年齢のピークが重なります

新しい9価ワクチンで子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスの 80～90％を防ぐことができます。しかし、ワクチンで防ぎきれない型のヒトパピローマウイルスがあることやヒトパピローマウイルス以外の原因によるものも少数ながらあるので 20 歳以後の 2 年に 1 回の子宮がん検診も必要です。

以前に問題となった子宮頸がんワクチン接種後の症状については、以下の報告があります。
日本の大規模研究（名古屋スタディ）でワクチン後に問題となった症状はワクチンを受けた方と受けてない方とで出現率に差がなかったというデータがあります。　※Suzuki S et al. Papillomavirus Res. 2018;5:96-103

また、子宮頸がんワクチンの効果について以下の海外の報告があります。
スウェーデンでの研究でワクチンを接種した方では子宮頸がんの発症リスクが 63％低下しました。17 歳未満で接種した方では 88％低下、17～30 歳で接種した方でも 53％低下がみられました
※Lei J et al. N Engl J Med. 2020;383:1340-1348

子宮頸がんの原因のほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）です。



HPVはありふれたウイルスで80%以上の女性が生涯で普通に感染するといわれています。感染の機会のほとんどは性交渉によります。感染しても多くの場合は自然に排除され問題にならないのですが、中には感染が持続することがあります。感染が持続した場合、少しずつ細胞が変化していき、やがて子宮頸がんとなるものがでてきます。

子宮頸がんの予防にはワクチンと検診の両方が重要です！

子宮頸がんワクチンで
HPV感染を予防

＋

20歳以降に
2年1回の定期検診

以下の方は公費で子宮頸がんワクチンを接種できます。

定期接種対象者

小学校6年生～高校1年生相当の女子

9価ワクチンの接種スケジュール

1回目を15歳までに受ける場合

1回目を15歳以降に受ける場合

注1） 1回目から5ヵ月以上はあける。5ヵ月未満で接種した場合は3回目が必要になる。
注2） 1回目から1ヵ月以上はあける。
注3） 2回目から3ヵ月以上はあける。

新しい9価ワクチンでは原因となるHPVの80～90%を防ぐことができます。さらに子宮頸がんワクチンでは防ぎきれない型のHPVがあることやHPV感染以外の原因によるものも少数ながらあるので20歳以降の2年に1回の定期検診も欠かせません。